



ゆづりは

堺市立図書館だより

第10巻 第3号 (通巻37号)
 発行日 平成27年12月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

堺っ子読書フォーラム開催

「あなたに本を届けたい～子どもと本の笑顔の架け橋」

子どもの読書活動に関わる連携・協力の促進を図り、子どもの読書活動についての関心や理解を深めるため、「堺っ子読書フォーラム」を、毎年開催しています。

日頃から、市内で活動を行ってられるボランティアグループの事例発表や、児童文学作家の村上しいこさんの講演をとおして、子どもが読書に親しめる環境づくりや読書の意義について理解を深める機会になればと考えています。ぜひ、ご参加ください。

日時：平成27年12月20日(日) **参加無料**

午後1時～4時

場所：堺市立西文化会館(ウエスティ) 7階 セミナールーム

対象：保護者の方や、子どもの成長・教育・読書に関心のある方など

定員：80人

保育：1歳以上(申込制)

要約筆記・手話通訳あり(申込制)

主催：堺市子ども読書活動推進会議

申込：中央図書館に直接来館、電話、FAXで。

TEL 072-244-3811 FAX 072-244-3321



住所：西区鳳東町6丁600
 最寄駅：JR阪和線鳳駅
 バス停：南海バス西区役所前

第一部 事例発表 [午後1時10分～] (子ども読書活動取組事例)

- ・読み聞かせボランティアの活動から
 『『くるくる』の活動について～手話での絵本の読み聞かせ～』
 発表／くるくる
 (手話おはなし会などの活動をしているボランティアグループ)
- ・おはなしボランティアの活動から
 『子どもの言葉を育てるために～地域での広がり求めて～』
 発表／美原おはなしスプーンの会
 (美原区を拠点に活動しているボランティアグループ)

第二部 講演 [午後2時～4時]

「作品を架け橋に～わたしの生い
 たちを通して伝えたい～」

講師：村上 しいこさん(児童文学作家)
 三重県生まれ。『かめきちのおまかせ自由研究』(岩崎書店)で第37回日本児童文学者協会新人賞、『れいぞうこのなつやすみ』(PHP研究所)で第17回ひろすけ童話賞を受賞。



詳しくは、図書館ホームページかチラシをご覧ください。

目次

堺っ子読書フォーラム開催
 「あなたに本を届けたい～
 子どもと本の笑顔の架け橋」 …1

角山文庫を開設します …2

シリーズ堺の〇〇
 堺の豪商案内 …2

この本で解決！
 ～国宝の建造物～ …3

堺かるた いろはの「て」 …3

司書のイチ押し！
 『The Giver』
 『ザ・ギバー 記憶を伝える者』
 『ギヴァー 記憶を注ぐ者』 …4

堺市立図書館電話番号一覧 …4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
 ゆづりゆづりて 譲り葉の
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



角山文庫を開設します

中央図書館は、元堺市教育委員会特別顧問、元教育委員、元堺市博物館長である故・角山榮（つのやまさかえ）さんのご遺族から、角山榮さんが所蔵されていた約4,000冊の資料をご寄贈いただきました。

その中から、ご本人の著作のほか、ゆかりの研究者の著作、イギリス経済史・食文化・お茶、時計などの生活史を中心に、約1,600冊の資料を選定し、「角山文庫」として平成27年12月23日（水曜・祝日）から、中央図書館内に開設しますの

で、ぜひご覧ください。文庫資料は、順次増加予定です。

また、同文庫の開設を記念して、角山榮さんの師事を受けた秋田茂大阪大学大学院文学研究科教授による講演会を、12月23日午後2時から3時まで中央図書館集会室で開催します。申込みは不要で、先着順（定員50人）です。

文庫（個人コレクション）とは・・・堺にゆかりのある文学者や研究者等の個人から寄贈をうけた特色ある資料。

詳しくは、図書館ホームページかチラシをご覧ください。

シリーズ 堺の〇〇

堺の豪商案内記

『住吉・堺名所并ニ豪商案内記（すみよし・さかいめいしょならびにごうしょうあんないき）』は、明治16（1883）年に戎之町西に住んでいた川崎源太郎によって出版された商工便覧で、約230点の銅版画が収録されています。川崎源太郎は、堺を手初めに西日本各地の商工便覧を作りました。

「商工便覧」とは当時の商工業の様子や地域の名所などを紹介するもので、地域ごとにまとめられ、ほぼ全国で発行されています。東京や大阪では数多く発行されていますが、堺ではこれだけのようです。

明治16年前後、堺のまちは活気に満ちていました。当時の堺を代表する豪商群は酒造家であり、『住吉・堺名所并ニ豪商案内記』には43の清酒醸造所が掲載されています。当時、関西の酒造業の中でも堺は、灘に匹敵するほどの名声を得ていたのです。

明治15年には、堺酒造組合の総代も務めた鳥井駒吉や藤田伝三郎ら19人が発起人となり、純民間資本による日本で初めての私鉄会社である阪堺鉄道会社が設立されています。この私鉄は明治18年に難波から大和川北岸まで、明治21年には大和川を超えて堺吾妻橋まで開通し、堺のまちに蒸気機関車が走るようになりました。

中国を経て日本に伝来し、江戸時代後期に九州の鍋島藩を通じて堺に伝わり、堺の職人が改良を加

え創案した手織りの敷物「堺緞通」も、この頃から、堺・泉州一帯の地場産業として発展します。

この頃は、堺商工業界の転換期でした。緞通や煉瓦、紡績などの関係会社や工場が多く建てられ、堺のまちが工業都市として発展を見せる一方、江戸時代の主要産業であった鉄砲鍛冶屋は、火縄銃が廃れ、西洋式銃に移行していく中で次第に衰退していきます。『住吉・堺名所并ニ豪商案内記』には「弾薬製造所 火薬製造処」が書かれていますが、出版の数年後に廃業しています。

また、与謝野晶子の生家として有名な菓子店「駿河屋」、アサヒビールの礎を築いた鳥井駒吉の「清酒醸造所」、潮湯の有名料理屋「一力」、「丸万」などの豪商の他、宿院の御旅所、魚夜市の様子など、堺の名所旧跡も紹介され、見どころがたくさんあります。

図書館HPの地域資料デジタルアーカイブでは全頁をご覧ください。拡大可能で細かい部分も詳しく確認することができますので、ぜひご利用ください。

参考文献

「堺豪商今昔物語」小谷方明／著（『堺春秋』連載記事）

『堺と三都』堺市博物館 1995年

『フェニックス堺 進取の気風で時代を拓き、たくましく甦った都市の歴史』堺市政100周年記念事業事務局／編 堺市 1989年

『むかしの堺 [正編]』別所やそじ・尼見清市／共著 児童文化振興会 1976年

↓弾薬製造所
火薬製造処



↓(左)御宿潮湯生魚
料理 丸万

↓(右)御宿潮湯生魚
料理 一力



この本で解決！ ～国宝の建造物～

平成26年、群馬県にある富岡製糸場が世界遺産に登録された後、国宝にも指定された、というニュースがありました。そのニュースを聞いて、国宝についてふとした疑問を持たれた方が図書館にいらっしやいました。

Q. 建物や地域が世界遺産に登録されたという話は毎年よく聞くが、新たに国宝に指定されたという話はあまり聞いたことがない。国宝も増えているのか。今どのくらいあるのだろうか。近くにあるなら見に行きたい。

A. 国宝（建造物）を中心に基本情報を確認しました。文化財保護法によると、文部科学大臣は「有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができ」、また「重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいなき国民の宝たるものを国宝に指定することができる」とされています。『よくわかる国宝』（岡部昌幸／監修 JTBパブリッシング／2009）には、文化財の管理は所有者が行うが、修理や保存に対しては国からの補助を受けることができるとありました。国宝の追加指定

は1976年から2008年までに21件しかなく、そのうち建造物の追加はありませんでした。また、2009年1月現在の建造物は214件262棟でした。

次に、最新の情報を確認するために、文化庁の「国指定文化財等データベース」（http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html）で平成27（2015）年11月1日現在の国宝（建造物）の数をみると、222件272棟でした。7年間で8件増えたこととなります。このデータベースでは、国宝・重要文化財（建造物）や世界遺産などの内容や地図での検索も可能です。「大阪・建造物・国宝」で絞り込むと、5件ありました。

また、『国宝』（芸術新潮編集部／編 新潮社／1993）や『朝日百科日本の国宝1～12巻』（朝日新聞社／1999）、『日本の国宝建築』（志村直愛／監修 宝島社／2015）でも、大阪の国宝建造物の写真や説明を見ることができます。



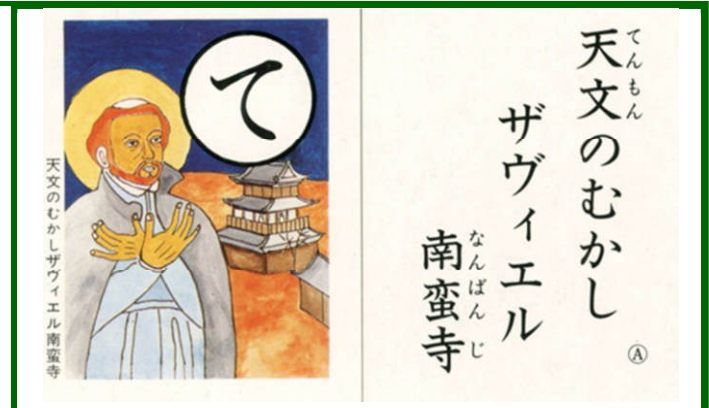
『堺の文化財』

近くにあるなら見に行きたいとのことでしたので、堺市にも、国宝に指定された建造物「桜井神社拝殿」があり、『堺の文化財』（堺市／2009）には、国宝のほか多くの文化財が紹介されていますとお答えしました。

堺かるた - いろはの「て」 てんもん ザヴィエル なんばんじ

フランシスコ・ザヴィエルは1506年にスペイン東北部バスク地方のナバラ国の貴族の家に生まれました。成長したザヴィエルはパリ大学に留学し、宣教師となって海を渡り、アジアの国々への布教活動をしていました。その時に日本人と出会い、日本へ布教に行くことを決心しました。ザヴィエルが日本に渡った天文年間には戦国時代の真ただ中で、国内の移動は困難を極めました。親切な日本人に助けられたようです。

堺の豪商、日比屋了慶も宣教師を助けた一人です。了慶の屋敷はその後、南蛮寺として多くの宣教師達を迎えました。昭和22（1947）年、その屋敷跡に公園が計画され、戎（えびす）公園とっていましたが、昭和24（1949）年、ザヴィエルが日本へ来て400年を迎えた記念に、ザビエル公園という名称が使われるようになりました。市民に親しまれる公園となり今に至



っています。

* ザヴィエルの表記は、堺かるたの表記にしたがっています。

参考文献

『フォーラム堺学 第六集』（フランシスコ・ザビエルと堺 角山榮／講演）2000年 堺都市政策研究所

『むかしの堺』別所やそじ・尼見清市／共著 堺児童文化振興会 1976年

『ザビエルからはじまった 日本の教会の歴史』結城了悟／著 女子パウロ会 2008年

司書のイチ押し!

「The Giver」(Lois Lowry Houghton Mifflin 1993)

「ザ・ギバー 記憶を伝える者」(ロイス・ローリー/作 掛川恭子/訳 講談社 1995)

「ギヴァー 記憶を注ぐ者」(ロイス・ローリー/著 島津やよい/訳 新評論 2010)

ユートピアとはどんな社会でしょうか。どうすれば幸せな人生を全うできるのでしょうか。今回紹介する『The Giver』は、そんなことを考えてしまう小説です。

この作品は、アメリカの作家ロイス・ローリーによる児童文学で、ニューベリー賞を受賞したロングセラーです。日本では1995年に講談社から掛川恭子の訳で『ザ・ギバー 記憶を伝える者』というタイトルで出版されました。その後絶版となり、2010年新評論から『ギヴァー 記憶を注ぐ者』として島津やよいの新訳で出版されました。中学生ぐらいから大人まで楽しめる、近未来ファンタジーです。

人類が荒廃を経て作り出した平等で規律正しい理想の社会—社会にうずまく悪や欲望、苦痛や悩みなどがすべてとりはらわれた社会—、その中で子どもたちの日常から物語は始まります。「長老会」の選考に従い、コミュニティの子どもたちは、「12歳の儀式」でそれぞれに適した職業に任命されますが、ジョーナスは、コミュニティの「記憶を受けつぐ者」に任命されます。コミュニティの「記憶を受けつぐ者」はただひとりで、特別な名誉職であると同時に、人々から消されてしまった恐れや苦痛などの記憶を請け負う、孤独な仕事でもありました。

しかし、「記憶を受けつぐ者」の訓練を受ける中で、コミュニティに隠された暗い真実を突き付けられたジョーナスは、そのあり方に疑問を抱き始めます。混乱の元となる自由と個性を無くし「画一化」をとるという選択をし、辛い記憶は全て

「記憶を受けつぐ者」が担うことで成り立つコミュニティ。ジョーナスは、記憶を全ての人が分けあうべきだと決心しますが…。

当初は、想像の世界のおはなしとして、平和とは愛とはと考えながら、面白く読みました。しかし、今読み返してみると、ひょっとするとこれは空想社会ではなく実際にあり得る未来なのではと、恐ろしくなってきました。空気を読み人に合わせて目立たないように気を付ける、そんな私たちの今の社会が、どんどんコミュニティに近づいて行っているように感じるのです。さて、みなさんはどう感じられるでしょうか？

邦訳の2冊の表紙を見比べてみると、どちらもこの作品の世界観が良く出ていますが、全く違う本ようです。旧訳の方は実在の画家の写真ですが、まさに「ザ・ギバー」そのものです。対して、新訳の絵はジョーナスの世界と言えそうです。作品のどこを見るかで違ってくるのでしょうか。文章も旧訳の方は骨太でがっしりとしていて、新訳は今の時代に合った読みやすい文章になっています。どちらを選ぶかは好みで。読み比べてみるのも面白いと思います。(K)



『ザ・ギバー
記憶を伝える者』



『ギヴァー
記憶を注ぐ者』



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター—船松人権歴史館	
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111	ホームページURL	http://www.lib-sakai.jp
				携帯ホームページURL	http://www.lib-sakai.jp/m/

